様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１５２０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３２３３

研究課題名（和文）文章読解時の語の意味特定における評価及びモニタリングストラテジーの指導法の検討

研究課題名（英文）Evaluation and Monitoring Strategies in Identifying the Meaning of Words during Reading Comprehension

研究代表者
佐藤　智照（Sato, Tomoaki）

島根大学・学術研究院教育研究推進学系・准教授

研究者番号：３０８０４９１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，第二言語としての日本語の文章読解時の語の意味特定における評価の重要性を明らかにすること，そして，ストラテジーの指導効果について明らかにすることであった。本研究では、まず語用論的観点から日本語学習者の文章読解を検討し、書き手の意図に沿ったコンテクストの選択や意味理解の困難点について検討を行った。その結果、明示的な語用論的推論の必要性を示さない場合に誤った解釈が生じやすいことや、複数のコンテクストを考慮して解釈を判断する重要性が明らかとなった。また、読解指導の効果についても検討を行った結果、読解過程における語用論的推論への意識が高まることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで、第二言語としての日本語の文章読解における語の意味特定を語用論的観点から検討を行った研究は、管見の限りない。本研究は、第二言語としての日本語の文章読解の語の意味特定について、語用論的観点から検討を行った。また、研究の結果、評価及びモニタリングの重要性を実証的に明らかにすることができた。さらに、調査によって得られた知見をもとに読解指導を行った。その結果、ストラテジー指導について一定の効果があることが確認された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to determine the importance of evaluation in identifying the meaning of words during text reading in Japanese as a second language, and to clarify the teaching effects of the strategies. In this study, we first examined Japanese learners' reading of texts from a pragmatic perspective, and examined difficulties in selecting contexts and understanding meanings in accordance with the writer's intentions. As a result, we found that incorrect interpretations are likely to occur when the need for explicit pragmatic inference is not indicated, and that it is important to judge readings in consideration of multiple contexts. The effects of reading comprehension instruction were also examined, and the results revealed an increased awareness of pragmatic inference in the reading comprehension process.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育　文章読解　語の意味特定　語用論的推論　関連性理論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

文章読解において，既知語，未知語にかかわらず文章中の語の意味を特定する処理，すなわち語の意味特定は重要である。未知語は，言うまでもないが，既知語であっても意味特定は必要である。例えば，既知語であっても多義語の場合，どのような意味で用いられているのか特定する必要がある。また，多義語以外の語においても，必ずしも辞書的意味で用いられるとは限らない。

これらの語の意味特定には，文脈情報が用いられる。語の意味特定について，未知語の意味推測の研究では読み手が文章読解において様々な文脈情報並びにストラテジーを使用していることが明らかとなっている。これらについて Nassaji（2006）は，語の意味特定に利用される知識源を 4 種，ストラテジーを 3 種を挙げている。具体的には，知識源では，語彙知識（語連想，コロケーション，形態素，語形），文の知識（文の意味，文での品詞），談話の知識（談話の意味，形式スキーマ），非言語知識（世界に関する知識）を挙げ，ストラテジーでは，意味を特定するストラテジー（繰り返す，語形分析，語形の類似），評価するストラテジー（自問自答，確認），モニタリングを挙げている。

これまでの語の意味特定の研究，特に未知語の意味推測の研究から，語の意味特定に用いられる知識源とストラテジーの種類について明らかとなっており，またストラテジーの中でも，評価とモニタリングのストラテジーが語の意味特定の成否に大きく影響を与えることが明らかとなっていると言える。このことから，第二言語として日本語を学ぶ日本語学習者が語の意味特定を正確に行うためには，意味特定に用いる知識源並びにストラテジー，特に評価とモニタリングのストラテジーを指導する必要があると考えられる。しかし，これまで第二言語としての日本語を対象に，語の意味特定について実証的に検討を行った研究はなく，指導の効果についても未だ明らかになっていない点が多い。

したがって，第二言語としての日本語の文章読解時の語の意味特定における評価とモニタリングの重要性とストラテジーの指導効果について検討を行うことが重要であると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は，第二言語としての日本語の文章読解時の語の意味特定における評価の重要性を明らかにすること，また，ストラテジーの指導効果について明らかにすることである。

３．研究の方法

（1）調査 1：語の意味特定における評価の重要性について

調査 1 では，文章読解における語の意味特定を語用論的観点から捉え，日本語学習者は，どのようにして書き手の意図に沿ったコンテクストを選び，書き手の意図した意味を理解しているのか，その際，どのような困難点があるのかについて検討を行った。具体的には，11 名の中上級日本語学習者を対象に語用論的推論課題及びインタビュー調査を実施した。

その結果，日本語学習者が推論を行う際に用いるコンテクストは，文章の主題や言語的コンテクストだけでなく，コンテクスト的含意や文章の構成，言語的知識，背景知識など幅広いことが確認された。また，推論を行う際，複数のコンテクストを想定して複数の解釈を得たり，それらの解釈を当該の文章に当てはめて妥当性を判断することや，初めに得た解釈に対して意味的なつながりが保てないような新たな情報が与えられた場合，解釈の修正を行うことが確認された。一方，誤った解釈を行った日本語学習者は，複数のコンテクストを想定することが困難であり，特定のコンテクストのみを想定した解釈を行うことや，初めに得た解釈を修正したり，再解釈を行うことが困難であることが確認された。また，推論の方向性が明示的に示されない自由拡充では，推論の必要性に気づくことが困難であり，誤った解釈を行う可能性が高いことが確認された。

これらのことから，第二言語としての日本語の文章読解においても未知語の意味推測と同様に，評価及びモニタリングが重要であることが確認された。

（2）調査 2：ストラテジーの指導効果について

調査 2 では，調査 1 で得られた知見をもとにストラテジーの指導効果について検討を行った。具体的には，6 名の中級日本語学習者を対象に，調査 1 で使用した語用論的推論課題を用いて，評価及びモニタリングのストラテジーを重視した指導を行った。指導効果については，事前と事後に実施したストラテジーに関する意識調査をもとに評価を行った。

その結果，語用論的推論に焦点を当てた読解指導を行うことで，1)同じことばや似た意味の言葉に注意しながら読むこと，2)省略されている言葉が何かを考えながら読むこと，3)言葉の意味がこの文章ではどのような意味で使われているのかを考えながら読むこと，4)文章全体の構成・流れを考えながら読むこと，5)途中でわからなくなったら前に戻って読み直すことの 5 つの読み方への意識が高まることが明らかとなった。

これらことから，ストラテジーの指導について一定の効果が確認された。

４．研究成果

これまで、第二言語としての日本語の文章読解における語の意味特定を語用論的観点から検討を行った研究は、管見の限りない。本研究は、第二言語としての日本語の文章読解の語の意味特定について、語用論的観点から検討を行った。また、研究の結果、評価及びモニタリングの重要性を実証的に明らかにすることができた。さらに、調査によって得られた知見をもとに読解指導を行った。その結果、ストラテジー指導について一定の効果があることが確認された。

＜引用文献＞

Nassaji, H. (2006). The relationship between depth of vocabulary knowledge and L2 learners' lexical inferencing strategy use and success. The Modern Language Journal, 90, 387-401.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 佐藤 智照	４．巻 24
２．論文標題 第二言語としての日本語の文章読解における語用論的推論過程	５．発行年 2023年
３．雑誌名 国立国語研究所論集 = NINJAL Research Papers	６．最初と最後の頁 59～87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003688	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関